

【議題】

あいさつ

- 1 調査研究テーマ「自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ」の進捗状況について
- 2 地域力応援基金助成事業について
- 3 その他

【出席者】

勝又委員 加藤委員 内藤委員 根本委員 中島委員 石川委員  
杉崎委員 山本委員 牛山委員

地域振興部地域力・国際都市担当部長 区民協働担当課長 地域力連携協働支援員  
区民協働担当 2名

【会議録】

事務局 定刻になりましたので、平成25年度第7回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。

本日、委員9名の方にご出席いただいておりますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第6条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。

なお、議事録作成のため、本日の会議を録音させていただきますのでご承知ください。始めに、地域力・国際都市担当部長からごあいさつを申し上げます。

会長 《会長あいさつ》

事務局 続きまして、会長にごあいさつをお願いします。

部長 《部長あいさつ》

事務局 ありがとうございます。この後は、会長に進行をお願いします。

会長 調査研究テーマ「自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ」の進捗状況について、事務局からお願いします。

支援員 「自治会・町会の現状と連携・協働ニーズ」アンケート調査結果に基づいて、前回は方向性まで示しましたが、本日はそれを踏まえ、より詳しい取り組みの内容を提案させていただきます。その前に前回のおさらいをします。前回はアンケート集計結果に基づいて、二つの方向性をお示しました。一つは、『NPOやボランティア団体、事業者との連携協働について自治会・町会の認識を高める』ということです。これは、連携協働することの意識を確認する設問の中で連携協働することについての回答が、良く分からないと無回答を合わせて40%あったので、認識が低いとのことからでした。また、連携協働する必要性を感じないとか、むしろ連携協働したくないという回答の中に、これまでに経験がないとか良い団体を知らないなどがありました。別の設

問の中にNPOやボランティア団体との連携のためにあると良い施策に回答いただいたところ、冊子で情報提供、知りあう交流の場開催などが上がっていました。これについては、まだ具体的な取り組みについてお示しはできませんが、これまで区で取り組んでいるイベントなどがあります。毎年1月に行っているNPO区民活動フォーラムは様々な団体を紹介するもので、今年度は自治会・町会のことについて、クイズ形式でお知らせする企画などもありましたが、まだまだNPOやボランティア団体と連携してこのイベントを実施するまでには至っていません。このようなイベントをより発展させていくのも一つの方法であると考えられます。その他、区内のいろいろなイベントを見渡していくと、国際交流や環境をテーマにしたものなど個別分野で取り組まれているイベントの中で、NPOがたくさん参加しているものがあります。NPOが主体となってはいますが、それぞれの分野毎に別々に出展していて、例えばエコフェスタなどは毎年2月に開催され、会場は小学校の持ち回りですが、会場になった地区の青少対の方々と接点はできてその後の広がりには至ってないようです。イベントなどの現状を把握していけば、イベントの打ち出し方なども今後考えていくことができるのではないかと思います。一方、18自治会連合会で各々イベントなどが行われていると思いますが、例えばそういう場に、NPOが参加させていただいたりできれば、自治会・町会の方々にも認識が高まるのではないかと考えます。これについては、まだアイデアのレベルで本日は具体化できていませんので、引き続き事務局において検討していきます。皆さまからもご意見があればお願いします。

本日中心となるのは方向性2『自治会・町会が多様な団体と連携協働を行うモデル事業を行う』というところになります。前回、集計結果の中で今後取り入れたい取り組みの中で上位に人材確保、防火防災、高齢者支援といったものが上がっていました。そして、現在の取り組みとしては多くはありませんが、インターネットを活用した情報発信、情報共有というのがあります。情報の発信・共有は、どの自治会・町会も行っていますが、ホームページの活用があまりされていませんでした。新しい人材を確保するためには、今後SNSの活用も含め、インターネットの活用は必要な方法でないかと考えています。本日は、記述されていた意見を参考に、具体的なモデル事業の案を四つ程考えてみましたので、事務局から説明します。

事務局

アンケートの結果に基づき、集計結果の活用する今後の方向性として、『自治会・町会が多様な人材や団体と連携・協働するモデル事業を行う』で取り組んでいきたいと読み取れたものをモデル事業案として「人材確保」「防火防災」「高齢者支援」「情報共有」の4分野を考えてみました。

「人材確保」については、どの自治会・町会も苦労している状況があります。考えられる取り組み内容として ①お助けマンチームの拡大 ②学校支援地域本部（スクールサポート）との連携による人材バンクの構築 ③人材確保のための作戦会議 ④被災地支援ボランティアの活用などになります。取組みによる効果は、地域の人材バンクとして登録し、恒常的な自治会。町会活動には参加できない人も単発のイベント時、協力してもらえる繋がりができる、これまで関わりのなかった方々との交流が期待でき

る、地域の役に立つことにより、地域の中での認知度が上がり、繋がりを大切にした地域をつくることのできるなどです。

「防火・防災」については、考えられる取組内容として ①宿泊型の学校避難所運営訓練 ②障がい者や高齢者に関する災害時の知識を習得する講座の開催 ③女性の視点で見た他の災害での避難所生活(講座) ④ボランティアの受け入れ訓練 などです。実施による効果としては、専門的な知識を習得できるや活動の幅が広がることで、より実践的な訓練ができるのではないかと考えられます。

「高齢者支援」については、考えられる取組内容としては、大きなテーマとして介護に頼らない地域をつくる地域ぐるみの活動とし、①介護予防事業の展開 ②配食サービスの取り組み・拡大 ③地域の世代間の交流などになります。効果検証のために、地域課題解決に向けて複合施設の強みを活かした取り組みを提案あげさせていただきました。しかし、共通目標課題の共有、連携、役割分担など、はっきりとした認識がないと目的は達成されない可能性がありますので、意思疎通の方法を確立する必要があると考えられます。

「情報共有」については、考えられる取組内容として ①広報誌の定期的な発刊、IT環境活用による情報発信 ②若手会員への役員会議録などのホームページによる活動状況報告 ③イベントや取り組みのためのボランティア募集 ④IT機器操作ができる会員を増やすための学習活動 ⑤情報誌等の記者人材の育成・確保 などです。効果としては、情報提供が速くなる、募集に迅速性が出てくる、情報収集が簡易になるため、新たな会員加入に結びつく、専門性をもつ人材の発掘や熱意をもつ人材の発掘手段として活用できる などが考えられます。これはできそうなものを挙げさせていただいたアイデアとなります。

来年度に入ってから、ヒアリングを行った上、区民協働がコーディネーターとして、事業を実施することの支援をさせていただくようなイメージです。

委員 行政の関わり方、特に職員の方の役割や防火・防災で言えば、消防団の方々との連携・協働はどのようにできますか。行政と協働しながら行っていくことで、より充実するのではないのでしょうか。

事務局 相手があることなので、どこまで本気でやれるかなど確認ができないと進めないと思います。アイデアは出しましたが、無理はさせられません。町会が合意の上で取り組めるか否かはヒアリングで確認し、内部調整が必要な所は一つ一つ確認して進めていこうと考えています。

委員 ヒアリング先に選んだ町会は、要望が出ているから選ばれたのですか。また、モデルとしての対象としていくのですか。

事務局 現在すでに取り組んでいて、他の団体との連携・協働のモデルになる事例であると感じたからです。他にも同じような取り組みをされている自治会・町会があるかもしれ

ませんが、ヒアリング結果からは見受けられませんでした。お話を聞いた結果、モデルとして繋げられれば協力を依頼していきたいと考えています。

委員 4分野の内容は更に、PTAや行政とも連携をとり、すでに取り組んでいる町会が多い「防火防災」「高齢者支援」と今後自治会・町会を元気にしていく方法ではありませんが、難しい分野である「人材確保」と「情報共有」の二つに分けられると思います。今後、ベースの部分であるし、行政も一緒に構築すべき重要な分野であると考えます。インターネットの世界は、誰でも簡単にできるわけではないので、自治会・町会と若い世代との接点になると思うが、行政の支援や資金面でのバックアップが必要になると感じます。

委員 地域防災や高齢者支援のようにゆるやかに地域の連携がなされていくものと発災時の対応は違うとは思いますが、ゆるやかに連携していくものは、地域全体のコミュニティとか連携協働が盛んになるとテーマ毎ではなくて、様々なものが一度に解決されていくと感じました。昔は何か起きると防火防災だけでなく、福祉、子育て、高齢者の部分も助け合いが広がっていたのではないのでしょうか。そういう意味では、テーマはありますが、テーマに囚われず、人の繋がりができることが一番大切なのではないかと思います。そこには、皆様が言っているように行政マンの関わりが今の時代は必要なのではないかとも思いました。しかし、異動などがあるので、その地域の方々の継続性に問題があるとも思います。地域の中に地域の一員ではなく、ボランティアでもなく、まとめあげコミュニティを生じさせるような制度が行政の中にあるともしかしたらうまくいくのかとも考えました。テストケースで実施する機会を与えていただけののなら、行政で仕組んでもよいのではないかと思います。

委員 「人材確保」で若い人というのは何歳位の方のことを想定しているのでしょうか。また、何がどのようによかったのかを対価として試算して出しても良いのではないのでしょうか。若い人も地域に根差した活動をしたいと思う反面、自分の生活を維持するためには働かなくてはいけないので、昔と生活形態が違う中で、どのようにメリットを与えるのかということは重要です。例えば、活発な商店街でボランティアをやるのは楽しいと思いますが、閑古鳥が鳴いているような場所では何も得るものがないという気がします。地域の方と仲良くすることに労力が必要なのに、関係もないところでボランティアに参加したら苦痛にしかならないと思います。仕事と割り切って対価がもらえるならやれば良いと感じてしまいます。

委員 「人材確保」と「情報共有」はこの二つこそ、若い人を入れていかないと難しいと考えます。若い人への対価をどのようにするか、例えば、お助けマンチームに入って、活動した時、それに対する対価はお金でなくてもいいと思います。何か違う形で、勉強会ができるとか得られるものがあるとか、やろうという気になるのではないかと考えました。解決策の例を挙げていただきましたが、できるものから取り組み、積み上

げていくことが大事だと思います。例えば、自治会・町会の10人中2人の方が賛成してくれたのであれば、その繋がりを取り組んでいくということが次につながるのではないかと思います。

委員 4つのテーマとも重要と思うので、モデル事業としてやっていくのは大変良いことだと思います。「人材確保」の面では、データバンクとマッチングシステムの構築が必要であると考えます。並行して、現在の自治会・町会の方々への人材教育も行っていくと良いと思います。お助けマンチームと人材バンクについて、もう少し詳しくお聞きしたいと思います。「情報共有」は今まで若い人が必要と言われていますが、大田区の生涯学習の観点からいくとリタイヤされた方々で作っているIT関係団体が複数あります。最近、社会教育課で団体を繋ぎ、活動の支援のためにITサポーターズネットワークというのを作り、月一回の専門のIT学習相談会を行うようになりました。ニーズがあり、相談に来る方がたくさんいると聞いています。シニア作られている団体と繋ぎ合わせていくのがいいのではないかと思います。データバンクとマッチングシステムなどの情報ツールの構築などを一緒にやっていくために、地域力応援基金を活用し、テーマを決めて、自治会・町会の活性化を図るということをモデル的にやるのも良いのではないかと思います。

委員 まさしくそれがモデル事業です。「人材確保」の問題は今までも言われてきた課題ですが、アンケートを行って、自治会・町会とNPO団体などがうまくいかないのは顔が見えていないことや必要であっても結び付くことが難しいということが見えてきました。コーディネート役で行政が関わり、どうしたら結び付けられるのかモデル事業として取り組んでみたいと思っています。募集をかけてもこれまでと同じ結果になってしまうと思いますので、アンケート結果によるヒアリングで動こうとしているのです。

委員 この4月以降にこれまでに実施している基金事業に出していくのが前提ですか。

事務局 区でテーマを出すジャンプアップ助成事業の範囲での取り組みと考えています。

委員 ジャンプアップは単年度ではありませんね。

事務局 通常のジャンプアップは、今年度採択し、翌年度実施となりますが、今回行おうとしているものは、26年度中に採択と実施を行うという考えです。多大な金額ではなく、結び付けられるものの構築のための助成金となります。

委員 全テーマやっていくのですか。

課長 ヒアリングに入って、実施が可能か否かです。

委員 「人材確保」は長期的なスパンで見ると必要があると思います。行政の補助金は期間も限られて成果を出していくこととなります。町会が準備してきて今回のモデルに乗るのであれば無理はないかもしれません。ヒアリングで町会がどこまでその事業が必要で、やる気があるのかということが重要だと思います。2年間が終了した後は、行政のコーディネーターがなくても自力で継続していくことが前提となりますよね。モデル事業を行うのであれば評価をしっかりと行って欲しいと思います。目的を設定し、達成した度合いを確認し、うまくいかなければ打ち切りもあるのかと思いますが、2年間だけで終わってしまうのも残念ですので、町会の方々は自力で続けていくことはできますか。

会長 町会の仕組みは良くできています。ボランティア活動ですが、会議などもたくさんの町会員が集まり、大小温度差はありますが、様々な内容の会議体を開催しています。しかし、頑張っているのですが、少し先を見た時、今がんばっておかないとこの先活動が下降線を描き始めるだろという危惧があります。アンケートの中に実態が現れていると思います。簡単に町会がなくなることはないと思います。行政が町会を必要としているならしっかりと支え、強固な基盤を作るべきであると思います。地域力の向上を目指すのであれば、連携協働は不可欠であると思います。区の中に様々な会議体がありますが、この会議体程重要視されている会議はないとも感じています。良い意見がたくさん出ました。他にありますか。

支援員 学校支援地域本部のことで人材バンクの質問が出ていた件ですが、この3年位で一気に立ちあげているところで、各学校によって取り組みが様々である状況です。人材の集め方は、各学校に配置されているコーディネーター次第の部分があります。一例で、地域の方を広く集めるために、町会の回覧板や掲示板に紹介チラシを出されて、手を挙げてくださった方をコーディネーターが面接したうえで登録をしているものがあります。すべての学校に立ちあがった状態でも差がありますので、これから経験交流が始まり、人材の集め方なども情報収集したいポイントであると思います。もう一例ですが、今年度のコーディネーター養成講座で、今年度は講座の最後に実習科目を設けていますが、ここで志茂田小学校支援地域本部のコーディネーターの方々が、六郷地区の学校支援地域本部をテーマとした経験交流のサロンを行い成果が出た内容となりましたので、今後も引き続きやっていきたいと考えています。この地区の経験交流の試みが、他の地区にも広がればよいと思います。学校支援地域本部は、まずは人材を学校に繋ぐことから始まりますが、そこに人材バンク的なものができるれば、更に自治会・町会に繋いでいくという可能性もあると考えられます。

事務局 お助けマンチームへの質問ですが、この町会は、ある活動にだけ手伝いをしてもらおうという「お助けマンチーム」というものを明確に作っており、更に力を入れ拡大したいという回答がありました。現在でも気さくに声をかけられる関係があるようなので、ヒアリングを行います。

- 支援員 別の町会でも地域の困りごとを助けるチームを作って活動しているなどが回答されていました。負担のかからない程度で自治会・町会活動に参加してもらおう試みという点で共通しています。
- 委員 ボランティアの意識も高い方のように思います。このような方達を行政でバンクのような形で登録されていると他の町会にも良い影響があると思います。
- 会長 趣旨を良く説明し、ご協力いただけるように進めていただきたいと思います。一番大切なのは、良く話を聞き、やりやすい状況を作りながら進めるということだと思います。町会も現在連携している団体はたくさんありますが、それだけでは間に合わなくなってきているということです。地域の方々も代ってきています。資金が必要であれば、基金などの手当で進められるとありがたいと思います。全域に拡大できるようなモデルを見出したいと思います。  
本日の内容は案ということですが、よろしいですか。
- 課長 ご提案です。これで決まりということではなく、アンケート調査の結果で抽出したヒアリング先となります。
- 委員 皆様のご意見をお聞きしていて感じたことですが、全国的にみても「人材確保」は難易度が高いようです。このモデルケースが作れば、大田区から全国に発信できる気がするので、私はこれに力を注いで欲しいと思います。
- 委員 ぜひ、これからヒアリングを実施いただきたいと思います。人はおもしろくなければ行きたくないし、お金で実施を出して実施することもあると思いますが、やはり、地域のために活動する人材ということでテーマとして出されていると思います。お助けマンチームがなぜ成り立っていて、なぜ継続ができているのか、自治会の役員の皆さんの意識がどのように変わってきたか、活動の内容などをヒアリングしていただきたいと思います。
- 事務局 この分野別のモデル事業案を作成するために、区民協働の職員で係内討議を何度も行いました。検討の過程で、私共も四つのモデルは並列ではなく、「人材確保」はすべての基本であることを何度も認識させられることになりました。行政側も同じ考えであります。楽しく実施している事例があれば、他の町会にそれを紹介していけると、役に立つのではないかと思います。ボランティアの内容によって、お金が出ないと行きたくないようなもの、自分、子供、親がその地域で安心安全に住んでいくために役立つものであれば無償ボランティアでも苦にはならないだろうし、このお助けマンチームの活動内容をよくお聞きしてきます。
- 会長 私の町会でも年中役員として活動するのは無理ですが、何かの活動だけ無償でお手伝

いをしてくれる若手が数名いますが、これもお助けマンですね。助けてくそのような地域の方がいれば登録をお願いし、その時は声をかけ助けともらうということです。

事務局 はい、完全にお助けマンです。このような話をいろいろな町会の方と行き、お助けマンの存在はたくさんあると思います。言葉にして認識する行為が定着するのに必要であるとも感じます。

委員 この四つの中に外国人の視点がありませんが、地域の中で外国人の方のボランティアなどはどのような状況でしょうか。また、防火・防災時の避難場所での対応など日頃からの関係が必要であると思うし、高齢者の介護には、外国人の方々も入っているのが当たり前のように感じています。

会長 熱心で純真な方がたくさんいます。災害弱者の中に言葉のわからない外国人がすでに入っています。訓練などに参加してもらうよう声掛けをしますが、一番の問題は資料がないことです。どこに誰がいるのかわからない状況なので、文字盤等で対応はしています。役所にも相談していますが困っている状況です。

部長 多文化共生推進協議会という会議体があります。外国人の委員6名と日本人の委員で構成しているものですが、現在二つのテーマで分科会を作り進めています。一つは、防災で、もう一つはお互い理解し合うためにはどうしたらよいかというものです。地域の防災訓練や活動に参加するためにはどうしたら良いかという内容で、これは古くて新しい問題であると思います。大田区では長い間懸案だった高齢者と障がい者の方々の災害時要援護者名簿を民生児童委員の皆様にご協力いただき作成しましたが、ここには外国人は入っていません。今後の検討課題となっています。まずは、外国人のコミュニティがありますので、その中にリーダー的な方を見つけ、交流の輪を広げられるような検討をしていますが、言葉の壁があるので難しい課題となっています。地域力と合わせて進めていく必要がありますので、今後同じ場での会議の必要性を感じます。

会長 行政の縦割りをそろそろ止めて欲しいと思います。地域住民はやり難いです。行政の内部で連携が取れないのではお話になりません。同じようなことを別の部署で検討しており、何度も関わっております。外国人のボランティアとして、例えば語学の勉強など発掘して欲しいものはいろいろあると思います。

部長 実際に実施しているところがあります。外国人が日本人に英語を教える「たまり場」のようなものはあります。各地区展開していくなどの提案をいただいています。中間報告で提案されていますので、来年はどうするかという状況があります。

委員 カフェレガートはお金がない状況であるとお聞きしていますが、展開は可能なのです



か。区が場所を担保して推進していくなどの話があるのですか。

部長 カフェレガートは機能しています。多文化共生推進センターのメンバーが出かけて現状を見えています。場所が必要なので、空き店舗、空き教室の活用なども検討しています。

会長 中学生、高校生もボランティアで大いに役に立っていることを申し添えておきます。他に何かありますか。

事務局 ヒアリングについての実施を確認いただきましたので、今年度のスケジュールについては、本日以降でヒアリングを実施し、次回の会議でヒアリング内容を報告します。別添の資料のような進め方になります。来年度は、できるものできないものを精査しながら進めていくことになります。

会長 それでは、次の地域力応援基金助成事業について、事務局から説明をお願いします。

事務局 いただいた意見を資料にまとめ、意見の概要と取組み方を整理しました。

<地域力応援基金助成事業アンケートの取組みの考え方について 資料により説明>

資料は大きく2段に分かれており、上段は、ジャンプアップ事業や経過監査、関係部署のフォロー、事業委託化などで、現在も事務局で改善を図っている部分で、対応しているもの、あるいはこれまでも行っていますが継続して改善していくものです。下段は申請、審査、継続性については制度の根幹になる部分となりますので、特に平成26年度のテーマとして来月の4月から審議いただきたいと考えます。

委員 ジャンプアップ事業の委託事業というのは今まで区でやっていたものを委託するということなのですか。

部長 区の課題としてテーマ設定し、募集を行っているものですので、うまくいった時、事業継続が必要と思われるものであれば区が事業化し、その団体に委託するというものになります。キーホルダーを配る高齢者の見守り事業などがそれに当たります。

委員 下段のテーマ部分は、26年度に検討し、その結果を27年度に実施するということですか。

事務局 来年度審議いただき、目標として27年度から実施していきたいと考えています。

委員 同一団体の連続申請、同時期の並行申請の制限など、26年度の申請については行わないということですか。見直しができるものはすぐに行えばいいと考えます。23年

度審議済みというのは、定期的に見直しを行っているということですか。

事務局 他の設問とリンクして考えなければいけない部分もありますので、トータルで審議いただき、進めたいと考えます。23年度審議済みというのは、スタートアップ事業対象経費の人件費除外、評定票の見直しがありました。別の意見がある中、トータルで審議いただきたいと思います。

課長 本日は、ご意見をいただいたものをまとめて説明しただけの状況で、審議は行っていません。スタートアップ事業は4月から申請が始まるので、26年度に審議いただき、できるものは27年度から実施していきたいと考えています。皆さんの合意が取れば見直していくということです。

部長 年度途中でも改善できるものについては見直すことはできると思います。間に合うものは行うということです。

委員 上段は具体的な見直し時期が入っていますが、下段の扱いはどのようになりますか。

課長 4月にスケジュールを出しますので審議いただき、できるものは見直しを行います。

会長 柔軟性を持ち、見直せるものは見直していくということでよろしいですね。それでは、区民活動コーディネーター（つなぎ役）交流会の説明をお願いします。

支援員 前回の会議で案内をしており、実施は2月25日（火）18時30分から20時45分で生活センターの大集会室で実施したものです。この交流会には2人の委員が来賓参加いただき、また、1人の委員にご自分の活動を事例紹介いただきました。皆さん、ありがとうございました。

#### ＜ 区民活動コーディネーター（つなぎ役）交流会報告 資料により説明 ＞

コーディネーター養成講座は21年度から開始しましたが、21・22年度は、講座のコンセプトが明確になっていない状況でしたので、23年度以降の受講者を対象とした交流会にしました。

コーディネーター養成講座は、地域の人材や様々な団体の繋ぎ役と位置付け、地域の中で、すでに団体活動を行っている方を対象にしたものです。23・24年度講座生の中から現在の活動内容を発表し、25年度講座生と経験交流を行っていただきました。前半は発表、後半は、班交流ということで、年度を越えた交流と各地域の交流を行いました。その後全体交流として、A4用紙に名前と今後やりたいこと、そのために求めているノウハウと人材を書きいただき、黒板に貼付して求人広告のようなイメージで交流を実施しました。最後に進展があった方に発表いただいたという内容です。当日の参加者に書いてもらった感想を、本日の資料として配布しています。今後もこのような交流会を行って欲しいということでした。毎年講座は実施しており、対象の講座生も増えていきますので、ネットワークづくりという面では、区の役割であると思います。

今年度の講座も来週3月12日が最終日となり、講座の中で実践活動まで実施するという取組みをカリキュラムに入れていきます。先程もお話しましたが、志茂田小学校支援地域本部のスクールサポートコーディネーターの方々が中心となった取組みを東六郷小学校や高畑小学校の方々も参加して、経験交流する場が開かれました。これをきっかけに、今後も交流して進めていこうという話になったようです。このように講座の中から現実の取組みが生まれて来ており、昨年度より今年度は力を入れた部分でも

あり、成果がでてきているというふうに感じられます。今年度は37人が受講し、1人も脱落者がいない状況です。満足度の高い講座になっていると感じられます。また機会があれば、ご報告をします。

委員 参加させていただき、非常に参考になりました。一つは、過去に参加した講座生の方が、講座の内容や展開が工夫されていて自分の受講時より良くなっているという感想を聞きました。大田区のノウハウが蓄積されているようなので、もっとアピールされたら良いと思います。

事務局 この会議の中でご報告するのは初めてかもしれません。これも一つのアピールになっているかと思います。今後ともこのような交流会については声かけや報告をさせていただきます。

会長 何かご質問はありますか。この件以外でも結構です。

委員 モデル事業のところで、「人材確保」については、一つの町会を対象に進めようとしています。実際に事業にするにあたっては、例えば学校支援との連携ができるならば、自治会・町会を核に周りの意見を聞き、自治会・町会の意見だけでなく範囲を広げて展開できるようにした方が良いと思いました。「情報発信」などもどこの自治会・町会も同じように必要であると思いますので、特別出張所単位でも良いと思いますので、なるべく広くニーズを聞いて進めていただきたいと思います。メインの町会を決めるのは良いですが、できあがったものが展開しやすいようにイメージして欲しいと思いました。

会長 ここで、次回の推進会議の日程を決めたいと思いますので、事務局からお願いします。

< 第1回 区民協働推進会議 4月22日(火)開催 >

会長 これで審議を終了させていただきます皆様、本日はありがとうございました。

< 終了 >